

令和 7 (2025) 年度

「運営に関する計画」

大阪市立南津守小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立南津守小学校 令和 7 年度 運営に関する計画

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学校教育目標、「学ぶ意欲を持ち、自他を大切にする子どもを育てる」のもと、学ぶことの楽しさを感じさせ、思いやりの心をもった児童の育成に取り組んでいる。

令和 6 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対し、最も肯定的な回答をする児童は市平均を上回っているが、「自分には、よいところがあると思いますか」への肯定的回答は市平均を下回っており、自己肯定感を高める教育活動の充実に努めていく。不登校、遅刻の多さは課題ではあるが、登校支援員の働きかけやスペシャルサポートルームの設置により、複数の児童は改善傾向にある。

また、経年調査の対市比、全国学力・学習状況調査の対全国比ともに平均には達していない。経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対し、最も肯定的な回答をする児童は市平均を下回っており、教育活動の中で互いに考えを交流しあう機会を増やし、学力の定着を図る必要がある。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は全国平均にわずかに及ばないが、経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的な回答をする児童は市平均を上回っており、体育的活動を充実させてきた成果がみられる。

教職員の超過勤務がなかなか減らない状況であるが、ICT 機器や図書室など既存の教育環境の効果的な活用をすすめ、タイムマネジメントができる組織にしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、9割以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査における「人の役に立ちたいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、9割以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査、令和7年度末の小学校学力経年調査、校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、令和3年度より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における標準化得点を令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を大阪市の平均値以上にする。
- 令和7年度末の小学校学力経年調査、校内調査から「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査における「タブレットパソコンを使うことで、勉強がわかりやすくなりますか」の項目において、肯定的な回答割合を令和4年度1回目と比較し10%向上させる。
- 令和7年度の超過勤務時間平均を令和4年度（31時間30分）より減らす。
- 令和7年度末の校内調査における「授業で南津守地域のことを調べたり、考えたりすることがありますか」の項目において、令和4年度の2回目と比較し、肯定的な回答割合を同等以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業目において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を85%にする。
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

大阪市立南津守小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 83% 以上にする。 (R5→R6 79.8%→82.5%) (R6 市平均 81.5%) ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 71% 以上にする。 (R6 本校 70.9% 市平均 80.0%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>児童同士の繋がりを深め、困ったときに助け合える仲間づくりを、すべての教職員が連携しながら進めていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査「学校は、楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。 (R6 末 89.1%)</p>	
<p>取組内容② 【安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>人権教育の継続的な実践や道徳教育の充実などに取り組み、自己肯定感を高めるとともに、自他を認め合う態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77% 以上にする。 (R6 末 76.3%)</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立南津守小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標				達成状況																																								
【未来を切り拓く学力・体力の向上】																																												
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 <table> <tr> <td>国語</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新 6</td> <td>0.88</td> <td>0.85</td> <td>0.88</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新 5</td> <td>0.86</td> <td>0.89</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新 4</td> <td>0.87</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <table> <tr> <td>算数</td> <td>3年</td> <td>4年</td> <td>5年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新 6</td> <td>0.92</td> <td>0.85</td> <td>0.87</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新 5</td> <td>1.00</td> <td>0.98</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新 4</td> <td>0.92</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 71% 以上にする。（R6 70.4%）（R6 市平均 68.9%） 				国語	3年	4年	5年		新 6	0.88	0.85	0.88		新 5	0.86	0.89			新 4	0.87				算数	3年	4年	5年		新 6	0.92	0.85	0.87		新 5	1.00	0.98			新 4	0.92				
国語	3年	4年	5年																																									
新 6	0.88	0.85	0.88																																									
新 5	0.86	0.89																																										
新 4	0.87																																											
算数	3年	4年	5年																																									
新 6	0.92	0.85	0.87																																									
新 5	1.00	0.98																																										
新 4	0.92																																											

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【誰一人取り残さない学力の向上】 1 日 1 回、話し合い活動ができる授業づくりを行う。	
指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 35% 以上にする。（R6 33.9%）（R6 市平均 40.5%）	
取組内容② 【健やかな体の育成】 年間を通して、たてわり活動や体育科の充実を図り、学級の外遊びの啓発を行う。	
指標 年度末の校内調査「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 72% 以上にする。（R6 末 71.2%）	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式 2)

大阪市立南津守小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く) (R6 活用平均 4-8月 60.8% 9-1月 66.1%) 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 85% にする。 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70% 以上にする。(R6 66.6%) (R6 市平均 72.7%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>学年別 ICT 活用スキル一覧表の整備や更新を行うとともに、日々の授業や係活動や委員会活動での利用など、学習者用端末などの ICT 機器を活用する場面を積極的に設定する。</p>	
<p>指標</p> <p>年度末の校内アンケート「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することで楽しみながら学習を進めることができる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87% 以上にする。(アンケート新規)</p>	
<p>取組内容② 【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>学校閉庁時刻を 19 時(週に 1 回は 18 時)に設定することで、タイムマネジメントを意識した働き方改革を行う。</p>	
<p>指標</p> <p>1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えない教職員の割合を 85% 以上にする。</p>	

取組内容③【生涯学習の支援】

学校図書館や蔵書の積極的な活用、委員会活動の活性化などを通して児童が本に触れる機会を増やし、読書への興味関心を高める。

指標

年度末の校内調査「本を読むことは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。(R6 末 72.1%)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点